

報道関係者 各位

2020年5月12日

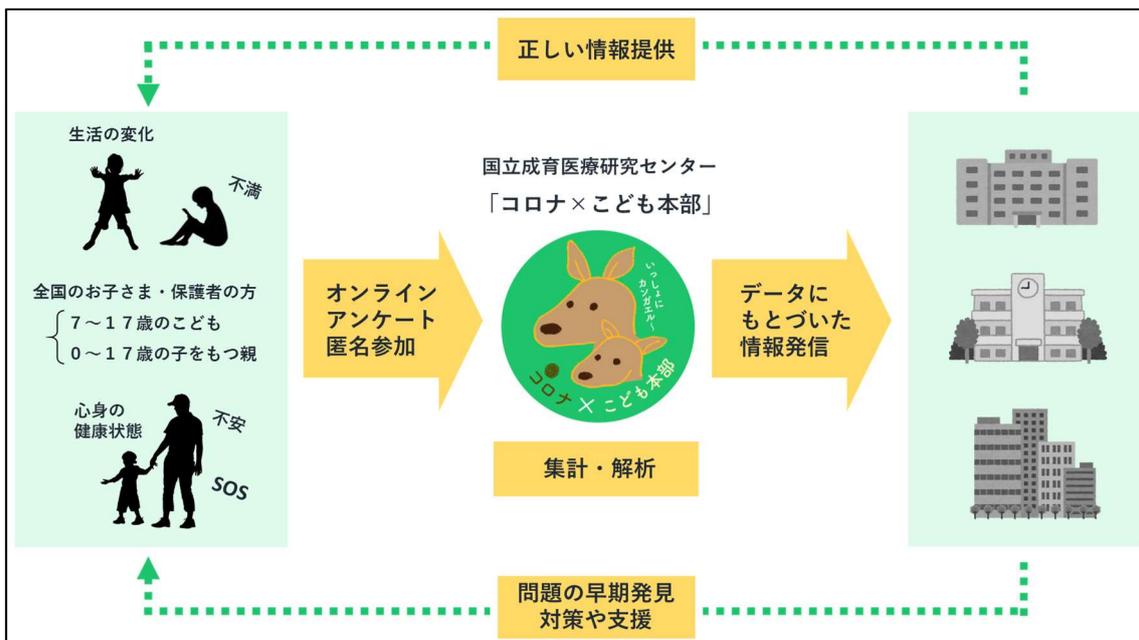
みんなの こえで みんなを げんきに  
「コロナ×こどもアンケート」

**SNS を活用した大規模なオンライン全国調査を開始**  
**新型コロナウイルス流行期におけるこどもたちの健康と生活状況を調査**

国立成育医療研究センター（所在地：東京都世田谷区大蔵 理事長：五十嵐隆）社会医学研究部・こころの診療部を中心とした研究グループは、2020年4月末より、「コロナ×こどもアンケート」を開始しました。

本調査は、新型コロナウイルス感染症の流行期における、こどもと保護者のストレスや不安、生活環境の変化、それに伴う心身の健康状態の現状を明らかにし、問題の早期発見や予防・対策に役立てることを目的としています。こどもの心身の健康には、保護者の心身の健康が密接に関係しているため、こども・保護者双方の声を聞くことを重視して、調査を行います。対象は、17歳以下のこどもがいる保護者および、7～17歳のこどもです。また調査は、1～2カ月ごとに1年間繰り返し行い、その都度、調査結果を公開していくことを予定しています。

本研究は厚生労働科学研究「児童・思春期精神疾患の診療実態把握と連携推進のための研究」（代表：五十嵐隆）の一部として実施されます。



## 【プレスリリースのポイント】

- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行に伴う不安や自宅待機の長期化などの要因が、こどもと保護者の身体的・精神的健康や生活状況に与える影響を把握し、問題の早期発見や予防・対策を行うために全国規模の調査を行います。
- 学校の休校や在宅勤務に伴い、家庭内で家族のみで生活する時間が長くなり、家族内のストレスの増加、生活習慣の不規則化、社会的孤立などが生じている実態を把握します。
- こども自身の声を聞くことで、こどもたちが感じていること、こどもを取り巻く問題点・改善点を社会に発信していきます。
- 調査参加を通して、参加者自身が自分や家族の心身の問題を早期発見することに繋がることも期待されます。
- 本研究では、若年層を中心に利用者割合が高いLINE や SNS（Facebook、Twitter）を積極的に活用したリクルートを行います。さまざまな媒体を通じて、多くの地域、多様な社会背景をもつ幅広い参加者から回答を得ることは、実態を正しく把握し、適切な予防・対策につながる可能性を高めます。

## 【背景】

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、国内外での社会生活を大きく変えてきました。日本では、2020年3月2日に全国の小中高への臨時休校要請が出され、家庭内での保護者ならびに、こどもたちの不安やストレスが増加している可能性があります。

2020年3月末時点でのセーブ・ザ・チルドレンの調査では、13.9%のこどもが日中一人で過ごしていると答えており、30.6%のこどもが日常生活を送れていない・外出できないことが困っている、と回答しています。特に緊急事態宣言が発令されて以降、こどもたちの休校・休園、保護者の在宅勤務が広く実施され、4月22日時点で95%の小中学校が休校の措置をとっています。休校延長により学習の機会が奪われるだけでなく、運動習慣の喪失、スクリーンタイム（テレビやスマートフォン、ゲーム機などを見ている時間）の延長などの生活変化は、こどもたちの心身の健康に、短期的のみならず中長期的な影響を及ぼすことが予想されます。

COVID-19 は過去の自然災害とは違い、目に見えない形での不安をもたらすかもしれません。また、いつ終わるかわからない自粛や行動制限の中で、家族とこどもは日々を暮らしています。そのような状況下で、どのような身体的・精神的影響を受けているかについての調査を行い、支援体制を構築していくことが、今の社会に求められています。特に、こども自身の声を聞く機会は限られており、本調査では、保護者自身とは別に、こども自身も対象に調査を行うことで、こどもたち自身のメッセージを社会に発信することも重要な目的の一つとしています。

なお、私たちの知る限りでは、Oxford 大学（英国）が本調査と類似の趣旨の研究 Co-SPACE（COVID-19: Supporting Parents, Adolescents and Children during Epidemics）を開始し、多数の親子が研究に参加しています。また、最近中国のグループも、今回の新型コロナウイルス流行下における親のメンタルヘルスとこどもの行動の相関を報告しています。

## 【研究手法と成果】

SNS などを通して、オンラインで匿名での調査を実施します。調査対象者は、日本に住む A)「7～17 歳のこども」、B)「0～17 歳のこどもの保護者（20 歳以上）」です。説明・同意（こどもの場合は代諾も含む）・回答は全てオンラインで行う予定です。

こどもには、基本属性（性別、年齢など）、現在の困りごと・状況（コロナに関連した生活全般の問題、トラウマ症状や虐待の有無など）、生活習慣、健康状態、支援ニーズを尋ねます。保護者には、基本属性、こどもの生活状況・習慣、健康状態、トラウマ症状の有無・程度、こどもに対する親の養育行動、虐待行為、親のメンタルヘルス、家庭内暴力、支援ニーズを尋ねます。多くの質問について「わからない・答えられない」という回答選択肢を用意し、途中で中断する機会を設けるなど、心理的負担にも配慮しています。

こどもと保護者は別々に、匿名で回答できるよう配慮されており、回答時間は約 10 分程度で、対象条件を満たす方は誰でも調査に協力することができます。

### 【質問の例】

- ・生活の様子 体を動かして遊んでいますか？友だちと連絡をとっていますか？
- ・からだの健康状態 元気いっぱいに過ごしていますか？
- ・こころの健康状態 家で気持ちよくすごしていますか？
- ・いま知りたいことや欲しい支援 どんなことに困っていますか？

## 【今後の展望・コメント】

- ・本調査は約 1～2 ヶ月ごとに 1 年間繰り返し実施し、調査の集計・分析結果は随時公開していくことを予定しています。
- ・調査結果をもとに、こどもたちと保護者の安全・安心につながるような具体的な情報（相談窓口や利用可能な情報源など）を発信することを計画しています。

### 「コロナ×こども本部」

国立成育医療研究センターの社会医学研究部とこころの診療部を中心とした、有志の研究者・医師たちで結成しました。「コロナ×こどもアンケート（新型コロナウイルス感染症流行期におけるこどもの健康・生活に関する全国調査）」実施を通して、新型コロナウイルス流行期におけるこどもたちの生活と健康の現状を明らかにし、問題の早期発見や予防・対策に役立てること、こどもたちと保護者の安全・安心につながるような具体的な情報（相談窓口や利用可能な情報源など）を発信することを目指します。

＜本件に関する連絡先＞  
国立研究開発法人国立成育医療研究センター  
広報企画室 村上・近藤  
電話：03-3416-0181（代表）  
Email: koho@ncchd.go.jp